

第3回

旭混声合唱団定期演奏会

賛助出演 美和エコー

1993年7月25日(日)

開演 14:00

せとしん エンゼルホール

主催 旭混声合唱団

ごあいさつ

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、第3回旭混声合唱団定期演奏会に、ようこそおいで下さいました。

さて、本日の演奏会ですが、第3回の定期演奏会としましたのは、1990年の11月の尾張旭市文化会館ホールの演奏会を第1回、1992年5月の美和エコーとのジョイントコンサートを第2回と数え、本日が第3回目であることが一つの理由です。もう一つの理由は、次回（第4回）演奏会を定期と呼べるうちに、1年か1年半の内に行えるめどがついたということです。つまり、1986年に少人数で発足以来、練習と活動を積み重ね、また、有数の指揮者とピアニストを得て、団員の数と内容において充実し、レパートリーと呼べるものができてきたということです。団員の意識の点では、内輪でアットホームな合唱の楽しみから、地域の文化云々まではいかないまでも、聴衆の皆さんとともにやはりアットホームな合唱の楽しみを目指しつつあるということです。

本日、愛知県海部郡美和町の珠玉の女声合唱団「美和エコー」の賛助出演を得て定期演奏会を開催します。女声合唱と混声合唱の両方をお楽しみ下さい。

最後になりましたが、本日の演奏会を迎えることができましたのは皆さんのご協力のたまものであると、団員一同心より感謝致しております。2時間たらずの演奏会ですが、合唱を通じて、皆さん方と共に音楽の楽しい時間と空間を作り出せばさいわいです。

1993年 7月25日

旭混声合唱団

『表紙デザイン 山田みのり』

プログラム

I 「日本抒情歌曲集」

編 曲 林 光

ゴンドラの唄
椰子の実
叱られて
早春賦
箱根八里

II 混声合唱組曲 「海鳥の詩」

作 詩 更科源藏
作 曲 広瀬量平

- 1 オロロン鳥
- 2 エトピリカ
- 3 海 鵜
- 4 北の海鳥

III 美和エコーステージ

「雪野原」

作詩 宮脇 賢
作曲 河西 保郎

「湖とちぎれ雲」

作詩 結城ふじお
作曲 渡辺 節保

「心の四季」より「風が」

作詩 吉野 弘
作曲 高田 三郎

「瞳」

作詩 薩摩 忠
作曲 小林 秀雄

「落葉松」

作詩 野上 彰
作曲 小林 秀雄

IV 混声合唱のための組曲 「旅」

- | | | |
|---|----------|-------|
| | 作 曲 | 佐藤 眞 |
| 1 | 旅立つ日 | 田中 清光 |
| 2 | 村の小径で | 山乃井 慎 |
| 3 | 旅のよろこび | 山乃井 慎 |
| 4 | なぎさ歩めば | 山乃井 慎 |
| 5 | かごにのって | 田中 清光 |
| 6 | 旅のあとに | 田中 清光 |
| 7 | 行こう ふたたび | 田中 清光 |

曲目について

「日本抒情歌曲集」

滝廉太郎、山田耕筰にはじまる、日本の近代歌曲の歴史の中で人々に愛唱されている名曲を選び、合唱曲に編曲されました。1964年から1975年にかけて、東京混成合唱団の以来に応じ林光が編曲したもので、小沢征爾、岩城宏之、田中信昭等によって初演されました。歌集は20曲から成っていますが、本日はこの中から、6曲を演奏します。

「海鳥の詩」

この曲は1977年芸術祭優秀賞に輝いた作品です。
オロロン鳥と呼ばれるウミガラスも、エトピリカもケイマフリもどれも、この暗く、荒々しい風土から逃れようとせず、むしろ風や吹雪や、氷雪の世界を愛するかのようによしく生きている。北国の辺境の、過酷なまでに厳しい自然の中で生きねばならぬ者の哀感が、まるで古代の悲歌のような荘重さと高貴さで歌われる。歌われているのは海鳥であるが、詩人の目は明らかに人間に向け照り返され、我々を共感と内省へと誘う。

「旅」

この曲は1962年、文部省主催の第17回芸術祭参加作品として作曲されました。現在もポピュラーな合唱曲として、各地の合唱団でよく歌われ、親しまれています。

旅立ちに始まり、村、海、山、渚……をめぐり、それぞれの旅を叙情的にうたい、そして終曲の行こうふたたびで力強くしめくられます。が、それは新しい旅のプロローグ。

—美和エコー—

皆様、こんにちは。私たち美和エコーは、名古屋市の西に隣接する海部郡美和町からやってまいりました。今日、旭混声合唱団の皆様と、同じステージで歌えますことを、たいへんうれしく思います。

私たち美和エコーは、ちょうど7年前に美和町で誕生いたしました。今までに4回の定期演奏会を持ち、とりわけ昨年旭混声合唱団との、コンサートはたいへん思い出に残りました。

今日は、子供のメルヘンの世界を歌った「雪野原」、「湖とちぎれ雲」を、一昨年、松坂屋のカトレア杯でゴールド賞を得た時の曲で、四季を通じて人間の姿を歌いあげた、高田三郎作曲の「心の四季」より「風が」、そして、人の心をとらえて離さない小林秀雄作曲の「瞳」、「落葉松」を歌います。どうぞよろしく。

本日はありがとうございました。

1993年7月25日

美和エコー

プロフィール

指揮者 照喜名 一男

昭和39年、立命館大学法学部卒業。同学オーケストラに在籍。チェロを故・上村正雄氏、指揮を青山政雄氏に師事。在学中チェロ奏者、指揮者として活躍。

昭和42年、名古屋音楽短期大学（現・名古屋音楽大学）器楽科入学。昭和44年同学卒業。以後、指揮者、チェロ奏者等でオーケストラ、室内楽、オペラなどで活躍。現在、名古屋音楽大学助教授、星野明道、松下修也各氏に師事、海部交響楽団、江南フィルハーモニー管弦楽団指揮者。平成元年4月より旭混声合唱団指揮者。

ピアニスト 石川ひとみ

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを深田嘉子、故・尾高節子、奥田京子、池沢幹男の諸氏に師事。室内楽、器楽伴奏をアドリアン・コックス氏に、チェンバロを中野振一郎氏に師事。

名フィル各奏者をはじめ、国内外の著名ソリストと多数共演。現在、主にアンサンブルピアニストとして、室内楽、器楽伴奏、合唱伴奏などで活躍。アンサンブルアーベントイヤー、週末楽団メンバー。

平成元年6月より旭混声合唱団ピアニスト。

出演メンバー

旭混声合唱団

指揮者	照喜名 一男			
ピアノ	石川 ひとみ			
ソプラノ	安藤 美子 佐藤 尚子 早澤満利子	伊藤美和子 柴田 春野 藤本 鈴子	岩田 登代 谷口千賀子	小坂 光世 長谷川美智子
アルト	加藤美佐子 辻 由紀子	加藤みつ子 中畑チズ子	児玉千鶴子 古田實智子	千石 智子 松本恵美子
テノール	秋田 松次 槌橋 研	井上 喜弘 中畑 義弘	合瀬 弘正 長谷川紀夫	加藤 太郎
バス	加藤 信也 平田 孝一 吉岡 克實	加藤 又一 古田 和則	長江 政則 松本 義明	早澤 信昭 三栄 秀雄

美和エコー

指揮者	照喜名一男			
ピアノ	岩田 理恵			
ソプラノ	伊藤 幸子 照喜名純子 南 紀美子	大薮 時子 長澤 洋子 宮地 恭子	杉浦 静 林 昌子 横田美代子	寺部 美子 平井 洋子
メゾソプラノ	河合美紀子 関 静 水谷 操	熊原 正枝 林 美穂子	小林千代美 堀江 典子	栖村千年世 水谷 国子
アルト	加悦 幸子 高島萬美江 鍋島富美代	河村れい子 高村 隆子	島松真由美 滝本十代子	鈴木美恵子 竹田あや子

旭混声合唱団の歩み

- ’ 86. 4 合唱団創立
- ’ 86. 9 第2回瀬戸合唱フェスティバル出演
- ’ 87. 9 第3回瀬戸合唱フェスティバル出演
- ’ 88. 10 尾張旭地区合唱交流会出演
- ’ 89. 2 第7回尾張旭市民音楽祭出演
- ’ 89. 4 指揮者に照喜名一男氏を迎える
- ’ 89. 9 第5回瀬戸合唱フェスティバル出演
- ’ 89. 10 第8回尾張旭市民音楽祭出演
- ’ 90. 3 垂井町はちす保育園卒園式賛助出演
- ’ 90. 9 第6回瀬戸合唱フェスティバル出演
- ’ 90. 11 第9回尾張旭市民音楽祭出演
- ’ 90. 11 第1回定期演奏会
- ’ 91. 8 アグアヨ・ホセルイス音楽教育の会協賛
- ’ 91. 9 第7回瀬戸合唱フェスティバル出演
- ’ 91. 10 照喜名一男氏チェロリサイタル共催
- ’ 91. 11 第10回尾張旭市民音楽祭出演
- ’ 92. 5 第2回定期演奏会（美和エコー共催）
- ’ 92. 9 第8回瀬戸合唱フェスティバル出演
- ’ 92. 11 第11回尾張旭市民音楽祭出演
- ’ 93. 7 第3回定期演奏会

団員募集中

一緒にハモッてみませんか！歌の好きなあなたを待っています。

*練習日 1回／毎週 土曜午後7時又は日曜 2ヶ月前に決定

*練習会場 尾張旭市旭ヶ丘公民館

*団費 2000円／月

*連絡先

団長	秋田 松次	☎0561-53-5023
副団長	槌橋 研	☎0568-91-8667
副団長	古田 實智子	☎0561-84-4101
副団長	松本 恵美子	☎0568-91-7922

Café BEAUBEL HOUSE

ボーベル・ハウス

尾張旭市東大久手町1丁目11-15(森林公園南) ☎05615-4-5778

※営業時間/AM7:30～深夜0:00

※年中無休

